



色いろなブルーベリーの特性

～現在，栽培されている主要品種の特性について～

ブルーベリーの品種は数多くあり，品種により収穫時期や形状・糖度などに様々な特性があります。

現在，都内のブルーベリー摘み取り園で栽培されている品種は，乾燥に強いラビットアイ種(RB)が中心ですが，今後ハイブッシュ種(HB)など他の品種の導入も考えて，都内で栽培した場合の既存品種の特性を調べました。夏休み期(7/20～8/31)の摘み取りには収穫期が重なるラビットアイ種その他，収穫期後半では比較的大きな果実が取れるノーザンハイブッシュ種(NHB)の「あまつぶ星，おおつぶ星，レイトブルー」が利用できます。



また，以下のような特性が分かりました。

小粒で球形なブルークロップ(NHB)

高糖度・高硬度なベッキーブルー(RB)

高糖度・低硬度なブライトウェル(RB)

低糖度・低硬度なバルドウイン(RB)

ブルーベリーそれぞれの特性を活かせば，利用場面に応じた品種選びが可能になります。
(園芸技術科)

牛乳中の有用成分を高めるウシの飼育方法

～共役リノール酸が高まります～

共役(きょうやく)リノール酸といわれる物質は，抗ガン作用およびダイエット作用などがあることが知られています。脂肪分の多いエサをウシに与えることで，この共役リノール酸を牛乳に多く含ませることができますが，乳量や乳成分などの生産性が低くなることがあります。

そこで，脂肪分を高めたエサをウシに与え，牛乳中の共役リノール酸を高めると共に乳生産に影響を与えない飼育方法を開発しました。実験では脂肪源として綿実を用いたエサ(綿実区)および大豆を用いたエサ(大豆区)を作り乳牛に与えました。その結果，両方とも生産性が低下することはありませんでした。

次に，共役リノール酸の一つであるリノール酸(C18:2 *cis*-9, *cis*-12)とルメニン酸(C18:2 *cis*-9, *trans*-11)の量を測りました。その結果，牛乳中のリノール酸およびルメニン酸の量は，いずれも大豆区で高くなりました。

これらのことから，大豆を用いたエサをウシに与えることで，生産性に影響を与えることなく牛乳中の共役リノール酸量を高められることが明らかになりました。

(畜産技術科)



農薬使用によるコマツナの安全性

～農作物のグループ化による登録農薬残留特性の解明～



コマツナは東京都の特産作物ですが、コマツナに病害虫が発生した場合に使用できる農薬はあまりありませんでした。2003年3月に農薬取締法が改正され、農作物の特性によっていくつかの農作物をひとつのグループとしてまとめ、グループごとに農薬登録ができることとなり、この制度改正によってコマツナに使用できる農薬の数が増えました。

しかし、新たにコマツナに使用できるようになった農薬の中には、コマツナに対する直接的な残留性に関する知見がない農薬がありました。そこで、それらの農薬をコマツナに使用した場合の残留を確認したところ、残留農薬基準値を超えてコマツナに残留することはなく、コマツナの安全性を確認しました。
(生産環境科)

試験に用いた農薬

成分名	商品名	対象病害虫
イミダクロプリド	アドマイヤー1粒剤 アドマイヤーフロアブル	アブラムシ類 アブラムシ類、コナジラミ類
クロマフェノジド	マトリックフロアブル	ヨトウムシ類
ジノテフラン	スタークル粒剤・アルバリン粒剤	アブラムシ類、キスジノミハムシ
スピノサド	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ、コナガ、アザミウマ類他
ダイアジノン	ダイアジノン粒剤5	ネキリムシ類、キスジノミハムシ他

香りを楽しむシクラメン

～お好きな色を選んで下さい～

現在栽培されているシクラメン品種は、大型化、花色の多様化などの育種を進めるなかで元来持っていた香りを失ってしまいました。一方、シクラメン属には約20種の原種が見つかり、その中には強い芳香性をもつ原種 *Cyclamen purpurascens* が存在しています。

そこで、栽培品種 (*C.persicum*) と香りのある原種 *C.purpurascens* を交配して、香りのあるシクラメンを作り出しました。

東京都農林総合研究センターでは、今までにピンクの「さわや香ミディ」、赤紫の「おだや香」を育成し“香りシクラメンシリーズ”として、シクラメンの生産者に提供してきました。

昨年新たに覆輪系ピンクの「はる香ミディ」を作りました。東京都内では、ハウス栽培での直売を行っています。秋には新たな香りとお色をお楽しみ下さい。
(園芸技術科)



2008年12月10日、ジャパンフラワーセレクションに於いて、「さわや香ミディ」がフレグランス特別賞を受賞しました。

三宅島の緑化の状況報告

～二酸化硫黄ガス濃度と土壤の理化学性が森林植生に及ぼす影響～

三宅島では 2000 年の噴火以降、火山ガスが噴出し続けており、現在でも植生の回復がみられない区域があります。

そこで、火山ガス濃度と森林植生との関係ならびに火山灰の厚さと土壤の理化学性の関係を明らかにして、今後の造林・緑化に役立てます。

島内に 12 箇所の試験区を設置し、植生調査（種類と植被率）を行いました。二酸化硫黄ガス濃度は、試験区の近くで東京都が測定した火山ガス濃度の値を用いました。二酸化硫黄ガス濃度が比較的低い地点では、オオバヤシャブシが生育し、森林が回復しはじめていました。

土壤調査は、12 箇所の試験区のうち 8 試験区で行いました。火山灰が薄い試験区では土壤の酸性化が進んでいましたが、火山灰が厚く堆積していた試験区では、火山灰中に多量の水溶性 Ca を含むため、火山灰の下の土壤の酸性化が抑制されていました。

今後、三宅島の植生回復を考えるうえで、森林植生や土壤の理化学性について、モニタリングを続ける必要があります。

（緑化森林科）



緑が回復してきた地域

平成21年度 科学技術週間のお知らせ

施設公開

開催日:平成21年4月14日(火)

開催時間:10:00~16:00

開催場所:東京都農林総合研究センター(立川)

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1

JR青梅線西立川駅より徒歩約8分

お問い合わせ先:042-528-5216 研究企画室

開催内容:園芸教室(植木・花き・野菜・果樹),研究室見学ツアー,圃場案内ツアー



成果発表会

開催日:平成21年4月16日(木)

開催時間:13:30~15:45

開催場所:東京都農林総合研究センター 江戸川分場

〒133-0073 江戸川区鹿骨1-15-22

JR総武線新小岩駅南口より京成バス(4番)で15分「農業試験場前」下車

お問い合わせ先:03-3679-1458 江戸川分場

講演内容:夏まきコマツナの有望品種,UVカットフィルムの活用,ポインセチアの切り花栽培,エダマメのダイズシストセンチュウ対策 など全6課題



春の家畜ふれあいデー

4月25日(土)

毎年、多くの人で賑わう“春の家畜ふれあいデー”が今年も科学技術週間の一環として青梅庁舎で開催されます。

開催時間:9:30~15:00

催し物:家畜とのふれあい

搾乳体験

乳牛のコンテスト

東京農畜産物販売会(売り切れ次第終了)

のらぼう菜の摘み取り(なくなり次第終了)

開催場所:(財)東京都農林水産振興財団青梅庁舎

〒198-0024 東京都青梅市新町6-7-1

JR青梅線小作駅東口より西東京バス三ツ原循環で約10分

「平松北」下車徒歩3分

お問い合わせ先:0428-31-2171 青梅庁舎



(発行者)東京都農林総合研究センター 保科次雄

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html> 皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。